

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900409	
法人名	医療法人 清和会	
事業所名	グループホームふれあい三野	
所在地	徳島県三好市三野町加茂野宮東王地1551-2	
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.jp/">http://www.kaiakensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会	
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階	
訪問調査日	平成27年3月11日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様との距離感を利用者様が感じず、家族に近く家庭で過ごしているようなリラックスして落ち着いた生活ができる空間を提供できるようなケアをスタッフ一同心がけており、当事業所が長所としているところであります。また年間を通して様々な行事を行っており、利用者様と職員が共に楽しむ事ができるようにアイデアを出し合い活動しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、緑豊かな高台に位置しており、近隣には住宅や市民農園等のある、明るく見晴らしの良い環境に立地している。広い敷地内には、他サービス事業所が併設しており、行事や研修等を連携して行っている。職員は、利用者が家庭で過ごしているようなリラックスした生活を送ることができるよう支援に努めている。利用者に寄り添って、現在の利用者のできることに着目した支援に取り組んでいる。利用者一人ひとりの行事や日頃の生活の様子を、アルバムやCD-ROMに収め、家族に配っている。運営推進会議に出席した地域の方からの情報により、利用者や職員でお祭りに参加したり、近隣の住民の方の協力を得て、災害時の支援も構築したりして、相互に交流を行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念・三訓を唱和し職員が同じ意識のもとでケアを実施するよう努めている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。管理者と職員で理念を見直している。また、全職員で理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の児童を行事に招待する等して地域社会との交流の機会を設けている	利用者は、近隣へ散歩に出かけた際などに地域の方と挨拶を行っている。定期的に近隣住民や保育所の子どもへの来訪があり、相互に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や面会の際に投げかけられる疑問や悩み等に持ちうる知識、経験により得た技術を活かしサポートやアドバイスをさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて取り組みについての報告を行い会議にて発案された意見などは検討・反映に繋げることが出来るよう努めている	運営推進会議では、事業所の状況や取り組みについて報告し、意見交換を行っている。近隣の小学校との交流の機会が広がるなど、会議時に出された意見を事業所の運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会議をはじめ、ふれあい新聞等で当施設の取り組みや結果等を報告し、より密接な関係作りに努めている	日頃から、管理者は市担当者と連携を図り、利用状況や事業所の取り組みなどについて伝えるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや勉強会を通し身体拘束や虐待への理解を深める場を設けている	事業所では見守りを徹底し、決して拘束は行わないといった姿勢で接している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、安全・安心で自由な暮らしを支援している。年2回、事業所で勉強会を開催し、日頃のケアに反映している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、勉強会で取り入れた資料を職員へ配布する事で学習の機会を与え意識向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法改正や新たな制度が導入された場合など、管理者・介護支援専門員を中心とし家族様、職員への連絡や説明を行い関係機関との連携を図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者様、家族様に対して契約内容の説明を行っている。改定時についても説明、同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会にて意見交換会の場を設けている。利用者様には日常生活においても常に要望を伝えられる空間作りに努めている	事業所では、家族会を設け開催している。日頃の利用者との関わりを通じて、意見や意向を引き出すよう努めている。出された意見や要望は、関係者間で話し合い、サービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞く場を設け、朝礼や終礼もそのひとつとなっている。反映できそうな内容についてはミーティングを行い取り入れる事ができるよう努めている	管理者は、ミーティングや日頃の会話の中で意見や提案を聞く機会を設けている。また、週1回、代表者との個人面談の機会も設けており、出された意見を運営面に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングが代表者と職員の意見交換の場となっており、職員からの要望はミーティングにより代表者へ伝える事ができ、改善、向上のきっかけとなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を開催したり法人内外での研修への参加をする事で職員のスキルアップに取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での他施設を訪問する機会が年に一度あり、そこが意見交換や情報交換の場となっている。それにより職員は様々な視点からサービスを見つめ直す事ができケアの向上に繋がっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が状態の早期把握、ニーズの把握の意識を持っており、会話の中で利用者様が何を求めているのかを感じ取り対応できる能力を持っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員を中心に資料などを用いて説明している。家族様と共に利用者様を支援していくという意識のもと些細な事も話せる関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談があった段階で利用者様の身体・精神状態の把握に努め、管理者、介護支援専門員を中心にどのような支援方法やサービスが最も望ましいかを検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様同士の憩いの場となっているソファやたたみ部屋にて世間話をする時間をもったり、職員は意識して利用者様とのコミュニケーションを図り感情の共有やニーズの把握に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族様へ利用者様の状態稟諭告を行い、家族様の理解や協力も得て家族様と共にケアを行っていく関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの深いお寺や場所に出掛けたり、ドライブバスを実施し利用者様一人ひとりの思い出の地へと出向いたりしている	家族の協力を得たうえで、墓参りに出かけるなど、利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣を大切に支援している。事業所では、電話等を活用して継続的に知人と関わることができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯干しや家庭菜園等、利用者様同士のかかわりが密接になる生活があり、利用者様が利用者様を手助けするなど危険のない範囲で出来るよう見守りながら支援するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後や他施設へ移られる時はアフターケアとして状態の確認や相談の場などのケアを行っている。また利用者様の状態やニーズ等、他施設での新生活のフォローも行っている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と一緒に過ごす時間を利用し、思いや希望を聞きだしている。また様々な理由により伝えられない場合は日頃の生活ぶりや家族様の言葉を参考にし把握に努めている	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの思いや意向を把握しよう努めている。意思の把握が困難な場合には、日頃の暮らし方のほか、家族や関係者から得た情報に基づき、その方の視点で話しあって共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に家族様や利用者様本人からの情報により人となりを知り生活歴をカルテへ記載し全職員が把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中や夜間の様子や状態をカルテに記入し職員が共通理解のもと支援できるよう取り組んでおり、朝礼や終礼でも申し送りを行い状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に利用者様の思いを理解し、知り得た情報と現在の利用者様の状態を踏まえた上でどのようなケアが必要なのか話し合い、最も必要なケアを提供できるよう介護計画を作成している	利用者や家族の希望する暮らし方のほか、関係者の意見や気づき、アイデアを介護計画に反映している。利用者の心身状態の変化に応じて、随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況をカルテ記入し、職員が共通理解のもとケアを行っている。また、プランの見直しにも活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の状況に応じて送迎や通院などの対応を行う体制も整っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時は地域のボランティアクラブの協力を得たり、児童館や保育所の児童を招く等の取り組みをしている。また地域の公園や施設等を利用し、暮らしを楽しむ事ができるような取り組みを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様の希望の病院や医師からの医療の提供が継続できるよう支援している。また入所時に医療連携している病院がある事の説明もしており利用者様と家族様の希望に沿えるよう支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族と相談し、必要に応じて職員が通院介助を行っている。週1回、訪問看護を受け入れるなどして体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護や老健ふれあい看護師と連携し利用者様の健康管理や異常の早期対応ができる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との連携はもとより入院中も病室を訪問し状態の把握に努め、家族様の心のケアも行っている。入院中の状態を把握し病院と連携する事で再入居もスムーズに負担なく行えるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階での説明を行い、利用者様の今後について家族様との話し合いの時間をもち最善の支援が出来るようにサポートを行っている	契約時の段階で、重度化した場合や終末期の考え方や方針を説明している。日頃から、協力医療機関や訪問看護師に体調管理を依頼するなどしてチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成して勉強会を通して看護師から緊急時の応急処置や対応についての訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策についてのマニュアルを作成し定期的に防災訓練を行っている。また、消防と連携し消火器の扱い方や災害時の対応について学び、その時に備えた取り組みを行っている	事業所では、消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練では、事業所の災害対応マニュアルを活用している。地域の方に事業所内を見学してもらったり、職員がAED講習に参加したりして、災害時の協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	2ユニット	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの個性と人格を尊重し、思いやりのある語らいに努めている。また、狭い空間での生活でもあるのでプライバシーには配慮している。	職員は、利用者一人ひとりの個性や習慣、人格を尊重し、思いやりを持って接するよう心がけている。職員は、ミーティングなどの機会に話し合い、つねに利用者が自己決定することができるような言葉かけに努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アットホームな空間作りを心掛けている事もあり利用者様は要望を言いやすい空間になっている。自己決定についても利用者様が決定できるよう心掛けてケアを行っている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームならではのゆったりとした時間の流れがあり、利用者様一人ひとりがそれぞれのペースで生活出来るような生活空間を提供できるよう努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や身の回りの物などは利用者様の好みや個性を尊重し個別のケアに努めている。家族様への連絡も行い一緒に買い物に出掛けたりする機会もある	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員が協力して調理を行い、同じ食材で作った同じ料理と一緒に食し、1日の中でもより家庭的な空間を共有している	同一法人の運営する他サービス事業所の管理栄養士が、利用者との会話を通じてメニューの希望を聞いて作っている。食材は業者から納入しているが、利用者と職員で、畑で栽培した野菜等を収穫したり、地域の方から差し入れてもらった野菜を食材に用いたりしている。利用者と職員でテーブルを囲み、楽しい雰囲気の中で食事をとっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成したメニューにより栄養バランスは考えられており食事摂取量や水分量なども記録し体重管理など医師と連携しながら個別対応を行っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後には利用者様一人ひとりに口腔ケアを行っており、利用者様によっては舌ブラシでのケアも行っている。毎夕食後は義歯洗浄を行い清潔保持・肺炎予防に努めている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況に応じた排泄に関するケアを提供しており、身体能力の変化に応じてケア会議を開催し対応策の再検討も行っている	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。利用者の気持ちを大切に捉え、夜間もトイレでの排泄の自立に向けた支援と工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調節や運動量を増やしたりして自然排便が出来るようサポートしており、医療機関との連携も図っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様一人ひとりの希望を聞きスケジュールを立て入浴を実施している。	利用者一人ひとりの希望に応じた入浴を支援している。本人の好みのシャンプーや石鹸を準備したり、気が合う利用者同士で入浴してもらったりしている。利用者一人一人がくつろいだ気分で入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はもちろんの事、昼間の時間帯であっても利用者様が休息できる時間を確保しており、そのリズムや時間が確保できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の用法・用量についてはカルテ記載を行い、作用・副作用についての記載用紙もカルテに綴じ処方薬についての把握の徹底に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などを参考に利用者様一人ひとりにあったレクリエーションや個別ケアを実施し、生活にメリハリを出し役割をつくり、生きがいになるような生活の提供に取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば周辺地域への散歩やドライブバスを行い地域社会との繋がりを持ち、心にゆとりを持った生活が送れるように取り組んでいる	事業所では、近隣の散歩や動物の飼育場などへ利用者とともに出かけている。家族の協力を得て遠足に出かけることもある。また、ドライブバスを利用するなどして、日常的に外に出る機会を多く設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブバスなどでショッピングセンターへ買い物に出掛け自分のお金でジュースを買ったり欲しい物を購入して頂き、利用者様が管理し使用できるよう働きかけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり手紙を出したり、出来ない事は職員がサポートしながら行えるよう支援している。携帯電話をお持ちの利用者様もおられ個別ケアを実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の延長としての暮らしを提供できるよう取り組んでいる。また、トイレの場所がわからなかったり身の丈が低い方でもわかるような掲示の仕方をしたりとアイデアを出し合いながらケアを行っている	事業所の壁面には、季節の掲示物を飾っている。利用者の目線に配慮して表示するなどの工夫が見受けられる。利用者同士の語りも多く、居心地の良い空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士のコミュニティがあり、その空間でゆったりと過ごす事が出来るように働きかけており、家具の配置なども利用者様の状態に合わせて変更したりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がこれまでの生活で使用していた物を置いたり、ここでの思い出の品を飾ったり居室空間を安心した空間に出来るよう取り組んでいる	事業所では、居室に利用者の使い慣れた家具や道具を持ち込んでもらっており、その人らしく暮らし続けることのできる環境づくりを支援している。利用者がこれまでの生活を続けつつ、その人らしくプライベートな時間を過ごすことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームの為にバリアフリー空間となっているが生活する上で支援が必要な場面は多くあり、そのような時は機能の維持や自立支援を行っている		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念・三訓を唱和し職員が同じ意識のもとでケアを行っている。	朝礼にて理念・三訓を唱和し職員が同じ意識のもとでケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の児童を招き行事を一緒に行うなど地域社会との交流の機会を持っている。	地域の児童を招き行事を一緒に行うなど地域社会との交流の機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や面会の際に投げかけられる疑問や悩みなどに持ちうる知識や経験により得た技術を活かしサポートやアドバイスをさせて頂いている。	行事や面会の際に投げかけられる疑問や悩み等に持ちうる知識や経験により得た技術を活かしサポートやアドバイスをさせて頂いている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて取り組みについての報告を行い、会議にて発案された意見などは検討・反映につなげている。	運営推進会議にて取り組みについての報告を行い、会議にて発案された意見などは検討・反映につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会議をはじめ、ふれあい新聞などで当施設の取り組みや結果等を報告し、より密接な関係作りに努めている。	2か月に1度の運営推進会議をはじめ、ふれあい新聞等で当施設の取り組みや結果等を報告し、より密接な関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、勉強会等で身体拘束や虐待への理解を深める場を設けている。	ミーティング、勉強会等で身体拘束や虐待への理解を深める場を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、その資料についても一人ひとりに配布し学習の機会を与え、職員間でも声を掛け合い虐待の防止に努めている。	勉強会を行い、その資料についても一人ひとりに配布し学習の機会を与え、職員間でも声を掛け合い虐待の防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法改正や新たな制度が導入された場合など、管理者・ケアマネを中心とし家族への連絡や説明を行い、関係機関との連携を図っている。	法改正や新たな制度が導入された場合など、管理者・ケアマネを中心とし、家族への連絡や説明を行い、関係機関との連携を図るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者、家族に対し契約内容の説明を行っている。改定時についても説明・同意を得るようにしている。	入所時に利用者、家族に対し契約内容の説明を行っている。改定時についても説明・同意を得るようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2カ月に1度運営推進会議を開催し利用者や家族との意見交換の場を設けている。利用者には日常生活においても常に要望を言える空間作りに努めている。	2カ月に1度運営推進会議を開催し利用者や家族との意見交換の場を設けている。利用者には日常生活においても常に要望を言える空間作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞く場を設け、朝礼・終礼もそのひとつとなっている。反映できそうな内容のものは職員でミーティングをして取り入れるようにしている。	日常的に意見を聞く場を設け、朝礼・終礼もそのひとつとなっている。反映できそうな内容のものは職員でミーティングをして取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングが代表者と職員の意見交換の場となっており、職員からの要望はミーティングにより代表者へ伝える事ができ、改善・向上していけるよう努めている。	ミーティングが代表者と職員の意見交換の場となっており、職員からの要望はミーティングにより代表者へ伝える事ができ、改善・向上していけるよう努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を開催したり、法人内外での研修を行い、職員のスキルアップに取り組んでいる。	勉強会を開催したり、法人内外での研修を行い、職員のスキルアップに取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での他施設を訪問する機会が年に1度あり、そこが意見交換や情報交換の場となっている。それにより職員は様々な視点からのケアを学びサービスの向上に努めている。	法人内での他施設を訪問する機会が年に1度あり、そこが意見交換や情報交換の場となっている。それにより職員は様々な視点からのケアを学びサービスの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が状態の早期把握、ニーズの把握の意識を持っており、会話の中で利用者がどうしたいのかを感じ取り距離を縮めるコミュニケーション能力を持っている。	全職員が状態の早期把握、ニーズの把握の意識を持っており、会話の中で利用者がどうしたいのかを感じ取り距離を縮めるコミュニケーション能力を持っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネを中心に資料などを用いて説明しており、家族と共に利用者ケアしていくとの意識のもの些細な事も話せる関係の構築に努めている。	管理者・ケアマネを中心に資料などを用いて説明しており、家族と共に利用者ケアしていくとの意識のもの些細なことも話せる関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談があった段階で利用者の身体・精神状態の把握に努め、管理者・ケアマネを中心にどのような支援方法やサービス提供が望ましいのかを検討している。	入所相談があった段階で利用者の身体・精神状態の把握に努め、管理者・ケアマネを中心にどのような支援方法やサービス提供が望ましいのかを検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士の憩いの場となっているソファに座って世間話をする時間をもったり、職員は意識して利用者とのコミュニケーションを図り感情の共有やニーズの把握に努めている。	利用者同士の憩いの場となっているソファに座って世間話をする時間をもったり、職員は意識して利用者とのコミュニケーションを図り感情の共有やニーズの把握に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族へ利用者の状態報告を行い、家族の理解や協力も得て家族と共にケアを行っていく関係作りに努めている。	面会時には家族へ利用者の状態報告を行い、家族の理解や協力も得て家族と共にケアを行っていく関係作りに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み深いお寺に初詣に出掛けたり、ドライブバスを利用して利用者一人ひとりの思い出の地へと出向いたりしている。	馴染み深いお寺に初詣に出掛けたり、ドライブバスを利用して利用者一人ひとりの思い出の地へと出向いたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯干しや家庭菜園等利用者同士の関わりが密接になる生活があり、利用者が利用者を手助けするなど危険のない範囲でできるような見守り、支援ができるよう努めている。	洗濯干しや家庭菜園等利用者同士の関わりが密接になる生活があり、利用者が利用者を手助けするなど危険のない範囲でできるような見守り、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後や他施設へ移られる時などでもアフターケアとして状態の確認や相談できる支援を行っており、また利用者の状態やニーズなど他施設での新生活のフォローも行っている。	契約終了後や他施設へ移られる時などでもアフターケアとして状態の確認や相談できる支援を行っており、また利用者の状態やニーズなど他施設での新生活のフォローも行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一緒に過ごす時間を利用し、思いや希望を聞いている。また様々な理由により思いを伝えられない場合は日頃の生活ぶりや家族の意見を参考にして把握に努めている。	利用者と一緒に過ごす時間を利用し、思いや希望を聞いている。また様々な理由により思いを伝えられない場合は日頃の生活ぶりや家族の意見を参考にして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に家族や利用者本人からの情報により人となりを知り、生活歴をカルテ記載し把握できるよう取り組んでいる。	入所前や入所時に家族や利用者本人からの情報により人となりを知り、生活歴をカルテ記載し把握できるよう取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中や夜間の様子や状態をカルテに記入し職員が共通した理解のもとケアできるよう取り組んでおり、朝礼や終礼でも申し送りをを行い状態の把握に努めている。	日中や夜間の様子や状態をカルテに記入し職員が共通した理解のもとケアできるよう取り組んでおり、朝礼や終礼でも申し送りをを行い状態の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に利用者本人の思いを知り、知り得た情報と現在の利用者の状態を踏まえた上でどのようなケアが必要なのか介護職員、時には家族と共に話し合い現在の利用者にあったケアを提供できるよう介護計画を作成している。	ケアマネを中心に利用者本人の思いを知り、知り得た情報と現在の利用者の状態を踏まえた上でどのようなケアが必要なのか介護職員、時には家族と共に話し合い現在の利用者にあったケアを提供できるよう介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況をカルテ記入し、職員が同様の理解のもとケアを行っている。またプランの見直しにも活用している。	生活状況をカルテ記入し、職員が同様の理解のもとケアを行っている。またプランの見直しにも活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じて送迎・通院など対応しておりそのような体制も整っている。	利用者・家族の状況に応じて送迎・通院など対応しておりそのような体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時は地域のボランティアクラブの協力を得たり、児童館、保育所の児童を招くなどの取り組みをしている。また地域の公園や施設等を利用しより暮らしを楽しむ事ができるような取り組みを行っている。	行事の時は地域のボランティアクラブの協力を得たり、児童館・保育所の児童を招くなどの取り組みをしている。また地域の公園や施設等を利用し、より暮らしを楽しむ事ができるような取り組みを行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望の病院や医師からの医療の提供が継続できるよう支援している。また入所時に医療連携している病院がある事の説明もしており利用者や家族の希望に沿えるよう支援している。	利用者や家族の希望の病院や医師からの医療の提供が継続できるよう支援している。また入所時に医療連携している病院がある事の説明もしており利用者や家族の希望に沿えるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護や老健ふれあい看護師と連携し、利用者の健康管理や異常の早期対応ができる体制を整えている。	週に1度の訪問看護や老健ふれあい看護師と連携し、利用者の健康管理や異常の早期対応ができる体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との連携はもとより入院中も病室を訪問し状態の把握に努め、家族の心のケアも行っている。入院中の状態を把握し病院との連携を図っておく事で再入居もスムーズに負担なく行えるようにしている。	入院先との連携はもとより入院中も病室を訪問し状態の把握に努め、家族の心のケアも行っている。入院中の状態を把握し病院との連携を図っておく事で再入居もスムーズに負担なく行えるようにしている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階での説明を行い、利用者の今後について家族との話し合いの時間を持ち、最善の支援ができるようにサポートを行っている。	できるだけ早い段階での説明を行い、利用者の今後について家族との話し合いの時間を持ち、最善の支援ができるようにサポートを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成して、勉強会を通して看護師から緊急時の応急処置や対応についての訓練を受けている。	緊急時の対応についてのマニュアルを作成して、勉強会を通して看護師から緊急時の応急処置や対応方法についての訓練を受けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策についてのマニュアルを作成し定期的に防災訓練を行っている。また消防と連携し消火器の扱い方や災害時の対応について学び、その時に備えた取り組みを行っている。	災害時の対策についてのマニュアルを作成し定期的に防災訓練を行っている。また消防と連携し消火器の扱い方や災害時の対応について学び、その時に備えた取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性と人格を尊重し、思いやりのある語らいに努めている。また狭い空間での生活でもあるのでプライバシーへの配慮も行っている。	利用者一人ひとりの個性と人格を尊重し、思いやりのある語らいに努めている。また狭い空間での生活でもあるのでプライバシーへの配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アットホームな空間作りを心掛けている事もあり、利用者は希望を言いやすい空間になっている。自己決定についても利用者が決定できるよう配慮している。	アットホームな空間作りを心掛けている事もあり、利用者は希望を言いやすい空間になっている。自己決定についても利用者が決定できるよう配慮している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームならではのゆったりとした時間の流れがあり、利用者一人ひとりがそれぞれのペースで生活できるような生活空間を提供している。	グループホームならではのゆったりとした時間の流れがあり、利用者一人ひとりがそれぞれのペースで生活出来るような生活空間を提供している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や身の回りの物などは利用者の好みや個性を尊重し個別のケアに努めている。家族との連携も図り一緒に買い物に出掛けたりする機会もある。	服や身の回りの物などは利用者の好みや個性を尊重し個別のケアに努めている。家族との連携も図り一緒に買い物に出掛けたりする機会もある。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が協力して調理を行い、同じ食材で作った同じ料理と一緒に食し、1日の中でもより家庭的な空間を共有している。	利用者と職員が協力して調理を行い、同じ食材で作った同じ料理と一緒に食し、1日の中でもより家庭的な空間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成したメニューにより栄養バランスは考えられており、食事摂取量や水分量なども記録し健康・体重管理を行い、また病院と連携しながら個別対応を行っている。	栄養士の作成したメニューにより栄養バランスは考えられており、食事摂取量や水分量なども記録し健康・体重管理を行い、また病院と連携しながら個別対応を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後には利用者一人ひとりに口腔ケアを行っており、利用者によっては舌ブラシでのケアも行っている。毎夕食後は義歯洗浄を行い、清潔保持・肺炎予防に努めている。	起床時と毎食後には利用者一人ひとりに口腔ケアを行っており、利用者によっては舌ブラシでのケアも行っている。毎夕食後は義歯洗浄を行い、清潔保持・肺炎予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況に応じた排泄に関するケアを提供しており、身体能力の変化に応じてケア会議を通して対応策の再検討も行っている。	身体状況に応じた排泄に関するケアを提供しており、身体能力の変化に応じてケア会議を行い対応策の再検討も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調節や運動量を増やしたりして自然排便ができるようサポートしており、医療機関との連携も図っている。	水分量の調節や運動量を増やしたりして自然排便ができるようサポートしており、医療機関との連携も図っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望を聞きスケジュールを立て入浴を実施している。	利用者一人ひとりの希望を聞きスケジュールを立て入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はもちろんの事、昼間の時間帯であっても利用者が休息できる時間を確保しており、そのリズムや時間が確保できるように努めている。	夜間はもちろんの事、昼間の時間帯であっても利用者が休息できる時間を確保しており、そのリズムや時間が確保できるように努めている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の用法・用量についてはカルテ記載を行い、作用・副作用や効果効能についての記載用紙もカルテに綴じ職員の理解の徹底に努めている。	処方薬の用法・用量についてはカルテ記載を行い、作用・副作用や効果効能についての記載用紙もカルテに綴じ職員の理解の徹底に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を参考に利用者一人ひとりにあったレクリエーションや個別ケアを実施し、生活にメリハリを出し役割を作り、生きがいになるような生活の提供に取り組んでいる。	生活歴等を参考に利用者一人ひとりにあったレクリエーションや個別ケアを実施し、生活にメリハリを出し役割を作り、生きがいになるような生活の提供に取り組んでいる。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば周辺地域への散歩やドライブバスを行い地域社会との繋がりを持ち、心にゆとりを持った生活が送れるように取り組んでいる。	希望があれば周辺地域への散歩やドライブバスを行い地域社会とのつながりを持ち、心にゆとりを持った生活が送れるように取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	2ユニット 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブバス等でショッピングセンターへ買い物に出掛け、自分のお金でジュースや欲しい物を購入して頂き、利用者様が管理し使用できるよう働きかけている。	ドライブバス等でショッピングセンターへ買い物に出掛け、自分のお金でジュースや欲しい物を購入して頂き、利用者様が管理し使用できるよう働きかけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり手紙を出したり、出来ない事は職員がサポートしながら行えるよう支援している。携帯電話をお持ちの利用者様もおられ個別ケアを実施している。	電話をかけたり手紙を出したり、出来ない事は職員がサポートしながら行えるよう支援している。携帯電話をお持ちの利用者様もおられ個別ケアを実施している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の延長としての暮らしを提供できるよう取り組んでいる。またトイレの場所がわからなかったり、低身長の方でもわかるような掲示の仕方をしたりとアイデアを出し合いながらケアを行っている。	家庭の延長としての暮らしを提供できるよう取り組んでいる。またトイレの場所がわからなかったり、低身長の方でもわかるような掲示の仕方をしたりとアイデアを出し合いながらケアを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士のコミュニティがあり、その空間でゆったりと過ごす事が出来るように働きかけており、家具の配置なども利用者様の状態に合わせて変更したりしている。	利用者様同士のコミュニティがあり、その空間でゆったりと過ごす事が出来るように働きかけており、家具の配置なども利用者様の状態に合わせて変更したりしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がこれまでの生活で使用していた物を置いたり、ここでの思い出の品を飾ったり居室空間を安心した空間に出来るよう取り組んでいる。	利用者様がこれまでの生活で使用していたものを置いたり、ここでの思い出の品を飾ったり居室空間を安心した空間に出来るよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームの為バリアフリー空間となっているが生活する上で支援が必要な場面は多くあり、そのような時は機能の維持や自立支援を行っている。	グループホームの為バリアフリー空間となっているが生活する上で支援が必要な場面は多くあり、そのような時は機能の維持や自立支援を行っている。	